



AUE News

2010年 11月1日

第 3 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500



目次

- 行事予定(11月1-15日)
- トピックス
 - ・実習園で附属幼稚園児が芋掘り体験
 - ・日本共産党愛知県委員ら学長、理事と懇談
 - ・イラスト周期表下敷きを生協で発売
 - ・国立教育系大学図書館協議会を開催
 - ・松田学長が日韓教育大学学長懇談会出席
- ・大人のための教養講座
- ・学生がKARIYA洲原音楽祭に参加
- ・晋州教育大学校総長らが本学訪問
- ・学生募集要項説明協議会
- ・学長と委員会担当学生が昼食懇談会
お知らせ・報告・投稿
- ・東北師範大学留学レポート
- ・食まるファイブ弁当の売り上げ報告

行事予定(11月1 - 15日)

- 1日(月) 事務運営協議会(10:00~ 第三会議室)
- 2日(火) 役員部局長会議(13:00~ 学長室)
教務企画委員会(16:40~ 第二会議室)
- 6日(土) 科学・ものづくりフェスタ@愛教大(10:00~ 共通講義棟)
- 8日(月) 大学改革推進委員会(16:40~ 第三会議室)
- 9日(火) 役員会(13:00~ 学長室)
安全衛生委員会(16:40~ 第五会議室)
- 10日(水) 教育創造開発機構委員会(9:30~ 第五会議室)
代議員会(13:30~ 第五会議室)
教育研究評議会(代議員会終了~ 第五会議室)

トピックス

実習園で附属幼稚園児が芋掘り体験(10/18)



実りの秋に歓声! 附属幼稚園(名古屋市東区)の園児たちが10月18日(月)午前、本学キャンパスの実習園を訪れ、秋晴れの下でサツマイモ掘りを楽しんだ。

恒例行事「芋掘り遠足」に、今年は年中の2クラス、計66人が参加。午前10時30分ごろ、実習園にバスで到着した。あらかじめ技術の学生や教職員が葉を取り除いておいたので、園児たちは早速、芋掘りに挑戦。



土が乾燥して固くなっていたため、掘り進めるのに苦戦しながらも、サツマイモを見つけると「あった~!」と大喜び。「4個取れた!」「バッタや芋虫がいた!」と自然の恵みに歓声を上げた。

付き添いの山中哲夫園長は「今年は天候不順で出来は、いまひとつ、

大小さまざまでしたが、子どもたちは芋掘りを楽しんだようです」。

この日の収穫は計 26 kg。幼稚園でのおやつになるほか、園児が持参した袋に先生たちが分けて入れ、取れたての“秋の味覚”を自宅に持ち帰った。

日本共産党愛知県委員らが学長，理事と懇談（10/18）



国立大学運営費交付金の削減に危機感を募らせている愛知教育大学の実態を知ろうと、日本共産党愛知県委員会の委員らが 10 月 18 日（月）午後に来学し、松田正久学長らと懇談した。

訪れたのは、同党の八田ひろ子氏（元参議院議員）、河江明美氏（准中央委員）、本村伸子氏（県常任委員）、山本シモ子氏（刈谷市議）ら 6 人。「各国立大学の独自の問題を伺い、国会審議委員に伝え、国政の場に届けたい」（八田氏）、「

大学から直接、声を聴かせていただき、社会に必要な教育にメスを入れて（予算削減）はイカンということで、私どもも（活動を）進めさせていただく」（河江氏）と口火をきった。

大学側は松田学長，折出健二理事（総務担当），岩崎公弥理事（教育担当），村松常司理事（学生担当）が対応。松田学長らは法人化以来、国からの運営費交付金が減額され続けた影響、削減により教職員 30 人余の補充ができない現状、来年度も交付金が削減されれば奨学金や授業料免除が困難になり学生の学習環境が悪化するなど本学の窮状を訴えた。

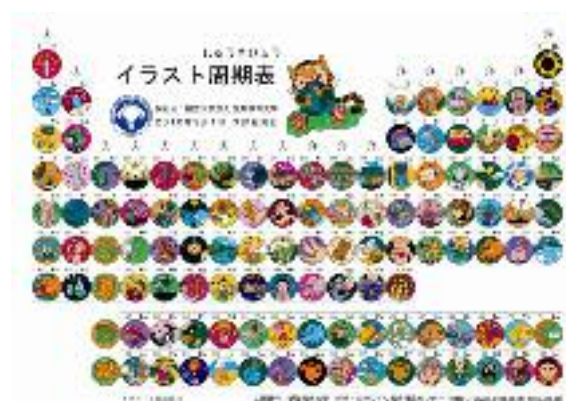
「日本の教育をどうしていくのか根幹に係わる」という松田学長らの言葉に、八田氏らは「一方的な削減は許されない。国にも働きかける」と述べ、1 時間余にわたる懇談が終了した。

イラスト周期表下敷きを生協で発売（10/21）

本学の科学・ものづくり教育推進センターが作成した「イラスト周期表下敷き」の販売が、本学生協で 10 月 21 日（木）から始まった。

この下敷きは、元素の記号や周期を楽しみながら覚えられるように同センターが制作。元素ごとにイラストが添えられ、裏面にはイラストの意味が紹介されているのが特徴。例えば、フッ素には歯磨きをする子ども、アンチモンはブルーのアイシャドーをしたクレオパトラが描かれ、各元素にまつわるエピソードがカラフルに表現されている。

今回のデザインは 2010 年 2 月に発行した「元素の周期表」の改定版。前作が好評だったことから、イラストの一部を変更してリニューアル。第 1 弾は文科省の特別教育研究経費での制作で配布に制限があったが、今回は大学が自前で制作することで一般への販売が可能になった。価格は 1 枚 200 円。



開発に当たった同センターの佐々田俊夫研究員は「従来の周期表は一般に見にくかったので、イラスト入りで学術的なものを作りたかった。“理科嫌い”が増える中学 3 年ぐらいで周期表を習うので、踏みとどまってほしいとの思いを込めて企画。絵だと理屈なく覚えることができる子どもいますからね。学生には家庭教師の子どもや弟妹へ、教職員には子どもや孫へのプレゼントにして活用してもらえたら」と語った。

下敷きは生協で販売されるほか、11 月 6 日（土）に開

催の「科学・ものづくりフェスタ@愛教大」参加者へ無料配布される予定。下敷きについての詳しい情報は同センターのホームページ (<http://www.step.aichi-edu.ac.jp/>) を参照。

国立教育系大学図書館協議会を開催 (10/21, 22)



本学附属図書館は「平成 22 年度国立教育系大学図書館協議会総会」を、開催当番館として名古屋城の雄姿が一望できる KKR ホテル名古屋 (名古屋市中区) を会場に 10 月 21 日 (木), 22 日 (金) の 2 日間開催した。

第 43 回の今年も、全国の国立教育系大学図書館など 12 機関、計 24 人が参加。本学附属図書館長の折出健二理事 (総務担当) があいさつの後、座長となり進行役を務めた。協議事項では「『総会』『研究会』の在り方」をはじめ、教育系大学図書館員の養成、学習・教育支援の新たな展開、電子ジャーナルに関する対応など 6 題を慎重に協議した。教育系大学図書館が抱える様々な課題が浮き彫りになったが、課題解決への糸口も見出すことができた。特に同協議会総会と研究部会の在り方については、次回以降の研究部会開催テーマを総会で協議し、研究部会との関連性、継続性を重視するとともに実務担当者のスキルアップが図れるよう方向性が示された。また、承合事項では人事交流・スキルアップ、広報活動、図書館の年次計画、選書体制について参加大学からの現状説明を受けて意見を交換。最後に来年度当番館に京都教育大学附属図書館を選出し、閉会した。

松田学長が日韓教育大学学長懇談会出席 (10/22)

日韓教育大学学長懇談会が、10 月 22 日 (金)、北海道教育大学で開催され、本学からは松田正久学長、社会科教育講座の真島聖子講師らが出席した。2008 年に第 1 回が開催された同懇談会は今年で第 3 回を迎え、“Present Problems and Situations among Universities of Education in Japan and Korea (日韓の教育大学の課題と現状)” のテーマのもと、日韓両国からそれぞれ 11 校の教員養成系大学の学長らが参加した。

懇談会に先立ち行われた、北海道教育大学附属札幌小学校・中学校への訪問では、学芸会の練習や科学実験の授業等を参観。韓国はもちろん日本の参加者も興味深そうに授業を参観し、時折生徒に質問する場面もみられた。



午後から開催された懇談会では、開催主旨の確認に続いて日韓双方の学長代表による講演が行われ、松田学長と東京学芸大学の村松泰子学長が日本側学長の代表を務めた。松田学長は、“National University Corporation and Reform of the Teacher Education System in Japan” と題して講演。日本の国立大学法人化の過程、及び法人化に付随する諸問題についての松田学長の問題提起に、多数の活発な意見が寄せられ、建設的な議論が展開された。

大人のための教養講座 (10/23)

「大人のための教養講座」が 10 月 23 日 (土)、刈谷駅前商店街と本学のコラボ事業として、同商店街の「スペース A q u a ふれあい交流広場」で開かれた。

講座は 2 部構成。午前 10 時 30 分～正午は古文書講座「戦国時代の古文書を読む」で、講師は蒲郡市博物館学芸員の平野仁也さん。古文書に興味のある地元の 12 人が参加した。この日の題材は、徳川家康が三男・秀忠の妻にあてて書いた手紙。平野さん



の指導で原文を読み解いた。家康が我が子をわがままに育てた反省から、孫には子どものころに行儀作法を教えて、しっかりと育てるようにアドバイスした内容。昔も今も変わらない家族の関係に参加者も思わず、ほほえんだり、うなずいたりして、興味深そうに平野さんの解説に聞き入っていた。最後に全員で手紙を音読して、古文書の音の響きを味わった。



午後 2 時～3 時 30 分は、美術講座「三岸節子の作品と生涯」と題して、一宮市三岸節子記念美術館学芸員で本学卒業生の平野恵美さんが講師を務め、地元愛知県出身の女流画家、三岸節子さんの人生にスポットを当てた。平野さんはスライドを使って、70 余年にわたる芸術の軌跡をたどりながら、その人生と共に作品を解説、美術鑑賞のポイントなども紹介した。

今回の講師、平野さんは夫妻。恵美さんが身重とあって体調に配慮して、午前のご主人の仁也さんが協力。同スペースでの教養講座も初開催だったが、「これまでの来場者と違う年齢層の方も参加されました。これからも新しい企画ができれば」と同商店街スタッフは期待していた。

学生が K A R I Y A 洲原音楽祭に参加 (10/23)

刈谷市の「刈谷ハイウェイオアシス」で 10 月 23 日(土)、「第 9 回 K A R I Y A 洲原音楽祭」が開催され、本学の学生たちがオカリナの演奏やアカペラの歌声などを披露した。

同音楽祭は刈谷市観光協会が主催。この日は 9 月に行われた予選通過グループが本選に挑んだ。本学の学生サークルは残念ながら予選落ちとなり、本選参加は叶わ



なかったが、本選会場とは別に

“愛教大ステージ”が設けられ、午前 11 時から午後 5 時まで、オカリナサークル、フォークソング部、軽音楽部、アカペラサークルが順次、出演。オカリナによる「トトロのテーマ」、アカペラの「ルパン三世のテーマ」など、お馴染みの曲を演奏、合唱した。秋晴れの下、爽やかなパフォーマンスで訪れた多くの家族連れなどを楽しませた。



晋州教育大学校総長らが本学訪問 (10/25)

10 月 25 日(月)、本学の学術交流協定締結校である晋州教育大学校(韓国)から、鄭宝柱総長ら 3 人が本学を訪問した。これに先立ち 10 月 22 日(金)には、松田正久学長が講演発表者、鄭総長が共催大学総長として出席した日韓教育大学学長懇談会が、北海道教育大学で開催されており、今回の訪問は来日行事の一環。

学長室で行われた表敬訪問には、学長、理事をはじめ晋州教育大学校との交流担当教員、晋州から本学への留学生 3 名も出席し、今後の交流の方向性などについて話し合いの場が持たれた。特に、留学中の取得可能単位数増加を目的とした単位互換制度に関しては、両大学共に、関連部署との連携・協力を早急に進め、早期確立を目指していく方針で合意した。

また、上記懇談会の主題でもあった国立大学法人化や、両国の大学生が抱える就職問題などにも話題が及び、日韓双方の高等教育についての貴重な情報交換の場となった。



本学と晋州教育大学は 1997 年に協定を締結。年 2 回開催される学生交流活動や交換留学、教員交流活動を軸に積極的な交流が展開されている。

学生募集要項説明協議会（10/27）



「平成 23 年度学生募集要項説明協議会」が 10 月 27 日（水）午後 2 時から、本部棟 3 階の第一会議室で行われた。

同協議会には愛知県内の高校の進路指導担当教員 111 人と、本学からは松田正久学長をはじめ、理事や学系長、入試担当の教職員らが参加した。

冒頭、松田学長は、6 年一貫コースや免許更新講習、教職大学院、環境に配慮したキャンパスなど本学の教員養成への取り組みやそ

の結果、全国でもトップクラスの就職率を維持していることを紹介し、「優れた成績優秀な生徒さんを、ぜひ本学に送っていただきたい。とりわけ、理科・科学・ものづくりには力を入れています。11 月 6 日（土）には『科学・ものづくりフェスタ@愛教大』もあり、大学を知る手がかりに高校生に来学いただきたい」とあいさつした。

続いて、稲垣敏之入試課長が学生募集要項を、村松常司理事（学生担当）が予め寄せられた質問への回答を説明。質疑応答では、学生の就職状況、採用試験不合格者や非常勤教員となった学生にどんな支援が行われているのかなどの質問が寄せられ、それぞれ担当の教職員が返答に当たった。

学長と委員会担当学生が昼食懇談会（10/28）

松田正久学長が学長室に学生を招いて意見交換する昼食懇談会が 10 月 28 日（木）、29 日（金）の両日、行われた。日頃、直接話す機会の少ない学生たちと意見交換をするため、随時、開かれている。

28 日は全学会議運営委員会の大学院・学部の各代表、教務企画委員会の大学院代表、学生支援委員会の大学院・学部の各代表の 5 人を招待、総務・教務・学生支援の各課の担当職員 3 人も交えて、懇談会が開かれた。

松田学長は「普段は大学に注文があっても伝える機会がない。今日は、ざくばらんにお昼を食べながら意見交換をしたいと思う」と語り掛けて、昼食会が始まった。学生からは「昔の学生運動はどうして起こったのか」と問われ、松田学長が学生運動の背景や当時の大学と学生の緊迫した関係などを説明。学生からは「大学よりもまずは自分の事で、大学に意見する不満も生まれない。聞かれれば応える程度」と今どきの学生気質をのぞかせ、学長からは「先生と飲んだりする機会



があるのか」「それぞれが参加している委員会はどうですか」など学生への質問も出され、和やかな雰囲気ながら活発なやりとりがあった。

29 日は、12 月に行われる「子どもまつり」の実行委員 5 人と学生支援課の職員 2 人と懇談。意見交換をした後、参加者全員で、子どもまつりに向けて「頑張るぞー！」とポーズをとっての記念撮影も行われた。



お知らせ・報告・投稿

東北師範大学留学レポート

今年9月から来年8月まで中国・長春の本学協定校，東北師範大学に留学中の高橋利幸さんからのレポート第1弾が届きましたので掲載します。



左上はクラスメートと食事に行ったときの写真です。クラスにはアメリカ、アルゼンチン、ロシア、モンゴル、韓国の人があります。今回は韓国人とアメリカ人と食事に行きました。授業中はもちろん中国語ですが放課は英語や韓国語など様々な言語が飛び交います。そのため中国語以外の言葉も覚えることができます。1 クラスは 15 人ほどで、会話、リスニング、読解、文法の 4 科目を 1 日 2 コマずつ行ないます。

中国語の発音にとっても苦戦し、授業もついていくのがやっとなので家庭教師を雇い、週に2回の発音練習、東北師範大学との相互学習をしています。基本的には中国人との交流は皆無ですが、僕はたまたま日本語学科の学生と仲良くなって以来、その子のクラスに顔を出していくうちにクラスの子達と仲良くなり、いろいろ質問したり一緒にご飯を食べに行ったり、卓球したりしています。

毎年、東北師範大学に留学中の日本人だけの会が開かれているらしく、今年は9月に開かれ、20人ほど集まりました。本科生が多く、困ったときにはいろいろ助けてくれます。そして、中国では9月22日は大切な日（秋の節句・中秋節）で、授業は休みなので寮のいろいろな部屋でパーティーが開かれました。僕は韓国人たちと、ちぢみパーティーをしました！ なんだかんだ楽しい日々を過ごしています！
(現代学芸課程国際文化コース2年・高橋利幸)

食まるファイブ弁当の売り上げ報告

西村敬子教授（家政教育）の研究室から誕生、広く親しまれている食育キャラクター「食育ファイブ」にちなんだお弁当「食まるファイブバランス弁当」「食まるファイブおにぎり弁当」の2種類が6月16日から8月31日まで、東海3県のジャスコと静岡県の一部を含む東海地域のコンビニ「ミニストップ」で販売され、このほど売り上げの集計がまとまりました。

期間中の販売個数は、「バランス弁当」が約4万5000食、「おにぎり弁当」が約2万7000食。当初は、1カ月間の販売が予定されていたが、販売が好調だったため販売期間を延長。子どもの夏休みという事もあって、親子で買い物する機会が増え、食育をテーマとした内容が好調な売り上げにつながったとのこと。



編集後記

連日の中国での反日デモの報道に、中国の東北師範大学に留学中の高橋利幸さんの様子が気に

なっていました，元気に学生生活を楽しんでいるレポートに胸をなで下ろしました。本学からはこの秋から 11 人の学生が中国，韓国，イギリス，アメリカの協定校に留学中。「最近の若者は海外に出たがらない」とも言われていますが，学生さんたちからのいきいきとしたレポートが届く度，こちらにも元気をもらい，そしてちょっと，羨ましい気持ちになります。（K）

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール: kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者: 総務担当理事 折出 健二